

エコ -Eco Mystery- ミステリー



エコロジ探偵

「エコ」に関することをたくさん知っているよ



スクワール助手

好奇心旺盛で「エコ」に関するいろいろなミステリーを見つけてくるよ

ミステリーファイル ⑩ / 金継ぎ



※イラストはイメージです

探偵手帳

アップサイクル

捨てられてしまう物に手を加え、新たな価値をつけて新しい製品として生まれ変わらせること。洋服からぬいぐるみを作るなど、ものの価値を高める場合はアップ (Up) サイクルと呼ばれる。逆に洋服を雑巾にするなど、ものの価値が下がる場合はダウン (Down) サイクルと呼ばれる。洋服を繊維に戻して新しい洋服を作るなど、製品を原料に戻して加工する場合はリサイクルという。

うるし

ウルシの木の樹液のこと。塗料や接着剤として使われ、日本では9000年前の縄文時代の遺跡からも、漆を使った品が発見されている。漆は触るとかぶれることが多いが、固まると害はなく、しかも丈夫なのが特徴。水・熱・アルコール・酸・アルカリなどに強く、殺菌効果もある優れた自然の塗料である。



▲漆塗りのお椀

PIXTA



エコロジ探偵大変です！割れたお皿がパワーアップしてよみがえるそうです！魔法でしょうか



なぜ、割れた場所を自立させるのですか？

まあ落ち着きなさい。魔法ではなく、それは日本の金継ぎという伝統技術ですね。スクワールくんは、食器を割ってしまったらどうしますか？



質素で静かな様子や、不完全であることに美しさを感じる、日本の「わびさび」という考え方が影響していると考えられます。修理した後のきずを「景色」として楽しむのです



捨てて新しい物を買います…

現代では多くの方がそのようにしていますね。金継ぎは割れた食器を修理して、より美しくよみがえらせる技術なのです



深いですね～。昔の技術だから今はあまり行われていないのでしょうか



◀金継ぎで修理した食器

伝統的な金継ぎを行う職人は減っていますが、最近では漆の代わりに人工の接着剤*を使う方法もあります。家で金継ぎができるキットがあり、趣味で行う人が増えてきています
*食器への使用が認められていない物もあります



食器のアップサイクルですね。こんなにきれいなら、食器を割ってしまっても怒られずに済みそうです！どのように修理するのでしょうか



時代に合わせて金継ぎも進化しているのですね

① 接着



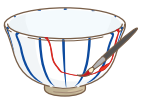
漆で作った接着剤で、割れた部分をくっつけて乾かす

② 形を整える



はみ出た接着剤を削り、穴などはあれば、漆で作ったペーストで埋めて乾かす

③ 漆を塗る



接着部分や、漆を埋めた面に、漆で作った色漆を何回か塗って乾かす

④ 金粉を付ける



最後に漆をもう一度塗り、その上に金粉を付ける

金継ぎを応用して、欠けたコップの飲み口の部分に温度を変えることのできる部品を付けた作品もあります。飲み口の温度によって、のどごしや味が変わるそうですよ



美しくしたり、新しい機能を加えたりすると、物が壊れても修理が楽しみになりますね！壊れたら捨てるのではなく「直してもっと良くする」が広がるといいなあ